

地域の課題(実験の背景)

- 東北中央道沿線地域の内陸部と沿岸部では、これまで県境を越えたつながりが少なく連携が必要
- 沿岸部(浜通り)は震災復興や生活再建の観点から内陸部と連携して交流人口を誘導する取組みが必要
- 東北中央道(無料の高速道路)にはSA・PAがなく、代替施設である「道の駅」の利活用と地域情報の発信が必要
- 東北中央道が全線開通すると沿線地域が通過されてしまう可能性が高まるため、IC周辺の「道の駅」に域内周遊を促進させる仕掛けが必要



社会実験の内容(検証事項)

(1)「道の駅」連携による広域周遊促進実験

- ①広域周遊バスの試行(相馬～米沢)
- ②広域周遊のゲートウェイ検証
(沿線の広域情報コーナー設置)

(2)「道の駅」を拠点とした域内周遊実験

- ①「道の駅」を拠点とする自転車活用の試行
- ②道の駅でのサイクリストの受入れ検証
- ③周遊バスの試行



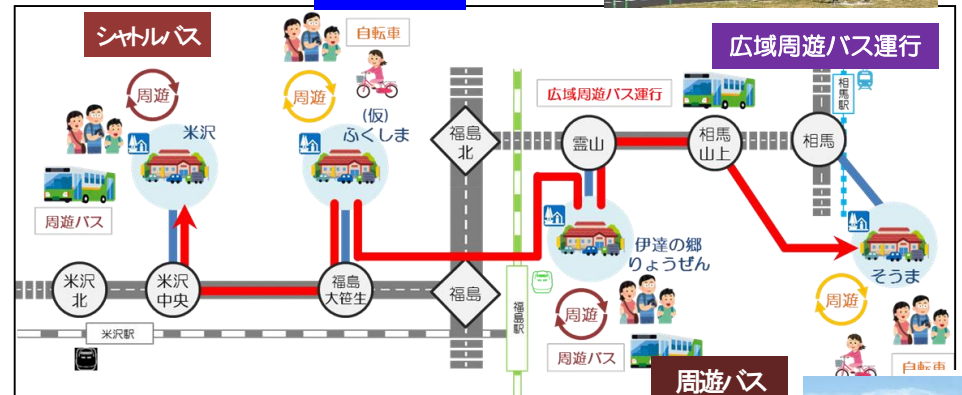
【イメージ図】



広域の沿線情報



レンタサイクル



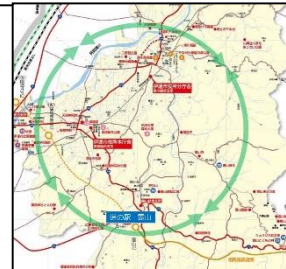
「道の駅ふくしま(仮)」サイクリングコース(案)



「道の駅そうま」サイクリングコース(案)



「道の駅米沢」と「上杉神社」を結ぶシャトルバスの試行



「道の駅伊達の郷りょうぜん」から歴史巡りができる周遊バスの試行



広域の沿線情報

サイクリスト受入れ

